

秦野市立南小学校での環境教育「はだのエコスクール」の報告

令和元年 11 月 12 日（火） 10:40～12:15、4 年 3 組の児童 33 名を対象に「野生動物と人間との関係」をテーマに環境講座をおこないました。身近な野生動物について、人間との間でどんな問題が起きているか児童に考えてもらうために以下のことを順におこないました。

- ①身近に住む野生動物（タヌキ、イノシシ、シカ、クマ、トビ、ヒヨドリ）の痕跡の紹介をビデオで見る。
- ②6 グループに分かれて、これら野生動物の生息・採食場所、ねぐらを、そのビデオを参考にタブレットを活用して調べ、考え、その動物カードをマップ上のその場所に貼って、その理由を発表する。
- ③同じグループで今度は人間の立場に立って、その場所でその動物と人間の間にはどんな問題が起きているかを考え、それを発表する。
- ④傷つく野生動物の保護原因や救護の実態をパワーポイントで見る。
- ⑤その動物と人間の間には起きている問題に対し、どうしたらよいかを同じグループで考え、それを発表する。
- ⑥傷ついた野生動物（タヌキ、オオコノハズク、チョウゲンボウ、フクロウ）とのふれあい体験。ケガで自然に戻れない実物の野生動物の姿を観て考えてもらう。

みんなで考え、以下の結論に達しました。近年、自然が、開発によって次々に姿を変え、失われ、野生動物は各地の住宅地や観光地で人間の生活に入り込んでいます。そこでは犬や猫に襲われたり、交通事故やガラス衝突、わな、伝染病・寄生中症などで傷つく野生動物は数少なくありません。野生動物が傷つく原因には私たち人間の生活との関わりがあるので、野生動物を守るには私たちはそれらに気をつけなければなりません。それには人と野生動物が共に住みやすい環境を守る必要があります。

おわりに、はだのエコスクールは企業・環境団体・市などが持っている情報や技術などを活用し、学校の授業（総合的な学習、社会、理科など）として行われています。また秦野市の小学校では児童がのびのびと主体的に学べるようにと授業にタブレットを使った ICT 教育をおこなっています。そこで児童は、スタッフから学ぶのではなく、タブレットを活用して自分の力で「調べ」「考え」「発表」という児童主体型の授業を今回のエコスクールではおこないました。その結果、身近に生息する野生動物や自然環境について、このテーマ（野生動物と人間との関係）を通じて今回の目的であるみんなで一緒に考える授業できたと思います。あわせて、はだのエコスクールの基本目標のひとつ「みんなで環境を守り、育てよう」につながる授業もできたと思います。

小野茂生

・授業風景



①野生動物の痕跡の紹介をビデオで見る



②野生動物の生息・採食場所などをタブレットで調べる



②マップのその場所にその動物カードを貼る



④野生動物の保護原因や救護の実態をパワーポイントで見る



⑤野生動物と人間の間に起きている問題に対し、どうしたらよいかを、みんなで考える



⑥野生動物とのふれあい体験

